

第20回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成27年4月13日(月) 13:00~15:30

場所:いわき市文化センター 1階 大講義室

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:岡田生産推進室長(代理)

農林水産省水産庁:竹葉研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長(代理)

環境省:二村水環境課長(代理)

廃炉・汚染水対策チーム:吉田事務局長補佐、

江口対策官、豊口企画官、三木アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所:生越所長、木野参事官、谷田調整官、

岡山対策官、小野対策官、小形対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:福田執行役員

松永現地事務所長、有賀審議役

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根危機管理部政策監

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○新しい年度がスタートし、気持を新たに、関係者が一丸となって、廃炉・汚染水対策を安全かつ着実に進めていきたい。

○地元の皆様や国民の皆様に安心を感じていただくためには、各種の対策を安全かつ着実に進めていくとともに、しっかりと国民や全世界に情報発信していくこと、心配している事柄に対して説明を行っていくこと、日々発生する事柄について分析や対策を講じていくこ

となどが安心につながりとても重要と考える。

○本日は、①情報公開の推進、②前回会議での指摘事項、③最近の発生事象、の3点を中心に審議したい。

○情報公開の推進については、東京電力から今後の情報公開の方針について報告を受ける。これに関連して、私が指示したリスクの総点検の検討状況や、今回の発端となったK排水路の調査・対策についても報告を受け、議論したい。

○次に、前回会議では、1号機建屋カバー解体における強風の定義、排水路において高高警報が発生した際の運用管理について御指摘があり、それに対する検討結果について報告を受け、議論したい。

○さらに、最近の発生事象として、H4タンクエリア内周堰からの雨水漏えい、外周堰の雨水水位低下、2件の火災などがあり、これら最近発生した各事象について分析と対策の報告を受け、議論したい。

○その他、港湾口海水放射線モニタの運用が開始されたことや、汚染水浄化処理設備、陸側遮水壁などの各対策の進捗状況について報告を受けることとしている。

○先日蛇型ロボットを投入したことについて、ニュースでは“停まってしまった”と報道されているが、格納容器内の状況やデブリの状況がわからないなか2/3の内部調査を達成し、また電子機器の予定稼働時間10時間を超えて稼働できていることが確認できたことから、当初の目的を達成しているとも考えられると思う。

○本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いします。

(2) 会議概要 (主な指摘事項)

議題2

<資料1-2>

- 飛散防止剤の散布については、予防散水や緊急散水の実行の運用基準を明確にすること。重層的な対策をとり、住民が安心できるような説明をすべき。
- P. 5の飛散防止剤の評価試験条件について、“80℃温度6時間乾燥”とあるが、これは現実の環境とはかけ離れている。これを現実におき直すところのようことを示した上で評価すべき。

- 地元への説明はいつ行うのか。カバー解体の実施時期も迫っていることから、検討しますと繰り返すだけでなく、きちんと準備をすべき。資料については、次回会議ということだけでなく、修正のうえ関係者に説明すること。

議題 8

<資料 1-6>

- 火災は発見が遅れると雑木材への延焼など大火事につながる。定期的なパトロールの強化やカメラによる監視を実施しているとのことであるが、さらなる改善案を考えること。
- 設備の経年劣化による火災事故など発生していることから、本社等で全ての設備や車両の劣化状況がわかるようにデータベース化して系統的に一元管理すべき。
- ロードマップでは、燃料デブリ取り出工法や廃棄物処理の研究開発について書かれているが、まずは炉内の状況把握がしっかりと行われていることが重要。

議題 10

<資料 1-8>

- H I Cについては、汚染水処理を止められないなか、解決すべき重要な課題。原因究明を早く行い対策をとること。
- 様々な対策が進む中、周辺の地下水のトレンドがかわっているのではないかと。きちんとウォッチすること（3次元的な評価等）
- 情報公開はただデータを出せばよいものではなく、そのデータが持つ意味も伝えることが重要。情報公開は住民の不安を払拭するためのものでもあることに留意すること。
- タンクについては、万が一トラブルがあった場合でも不足することのないよう、十分余裕をもち、計画的に設置すること。
- 信頼関係の回復に向け、安全の確保やリスク総点検について、できるだけ丁寧にわかり

やすく説明すること。

(3) 次回以降の日程

○次回は5月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)